

モデルプログラム E-2 母語・母文化・アイデンティティー複言語環境とその影響ー

ねらい	複言語環境が及ぼす母語・母文化形成と家族関係への影響を理解し、文化やアイデンティティの多元性(ハイブリッド性)を価値づけて、支援方法を考えられるようになる。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	E 母語・母文化・アイデンティティ L 保護者・地域とのネットワーク
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 言語環境を考える。(10分) ・母語と第二言語(E)	1. どのような言語環境であると、親との母語でのコミュニケーションがなくなるか、また、その言語環境がつけられる理由をグループで考える。 <視点> ・家庭の言語 ・学校の言語 ・地域社会の言語 ・メディアの言語 ・言語の政治的・経済的・文化的影響 ・社会情勢 ・保護者と子どもの生活状況
2. DVD視聴でコミュニケーション不全の状態を知る。(5分) ・家族とのコミュニケーション(E) ・言語・文化の違いによる断絶(L)	2. 下記の視点で、親とのコミュニケーションが難しくなったケースのDVDを見る。 <視点> ・親とどのような会話をすることが困難になるか。 ・親は子どもが母語を保持できない状態をどのように考えているか。 ・子どもにとって母語保持とはどういう意味を持つか。 ・親にとって子どもの母語保持とはどういう意味を持つか。
3. 母語保持/喪失について考える。(15分) ・母語/継承語教育(E)	3. 母語保持/喪失について、上記4点についてグループでお互いの意見を交換する。 1) それぞれメモを作成する。 2) そのメモをもとに、グループで話し合う。 3) グループの意見を、全体に紹介する。
4. 母文化/アイデンティティを成長に関連づけて考える。(30分) ・母語・母文化とアイデンティティ(E)	4. 母語/母文化に対する態度から子どものアイデンティティ形成について考える。 グループ活動 1) 下の①～③の子どものアイデンティティ形成について、それぞれどのような状態かを想像する。 2) それぞれのケースでどのような手立てが行われると、外国につながる自分というアイデンティティを肯定的にとらえて成長することができるか討議する。 ◇付箋紙(ケース別、3色)に書き、それを用紙に貼りながら話し合う。 ① 2のDVDで見た子どものケース ② 「お母さんベトナム語話さないで」『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』

<p>5. グループ発表をする。(25分)</p> <p>6. まとめる。(5分) ・文化間移動とライフコース(A)</p>	<p>ク～子どもたちのライフコースによりそって～』のケース</p> <p>③様々な葛藤の末、母文化を受け入れることができた子どものケース</p> <p>◇2の話し合いの内容と比べ、母語保持に対する考えの変化などがあれば、それも含めて発表する。</p> <p>5. グループ討議した内容を発表し、共有する。</p> <p>6. 多元的なアイデンティティ(ハイブリッド性)を肯定的に捉え、発達の視点の大切さを確認する。</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事例のDVDや映像以外にも、外国人児童生徒の実態が報告されている書籍や報告書などの情報を利用する。 ・「F言語と認知の発達」と合わせて取り扱うことも可能。その場合は、4の活動に代えて、子どもの言語発達・言語能力に関する理論を紹介し、3で紹介した子どもの言語の発達状態について話し合う。